

実践報告

活用する能力を高めるパフォーマンス評価の導入に関する考察 —中学校第1学年「着なくなった衣服を活用しよう」の授業分析を通して—

山口 美紀* ・ 岡 陽子**

Consideration on the Performance Evaluation to Promote the
Ability of Utilization:
Through the 7th graders' Session, I'll reuse the Clothes of not wearing

Miki YAMAGUCHI* and Yoko OKA**

【要約】

本研究では、活用する能力を高める「パフォーマンス評価」に着目し、「パフォーマンス課題」を中心に据えた題材構成のもと授業を実施した。本題材構成や設定した「パフォーマンス課題」及び「ルーブリック」の有効性等を検証・考察することが本研究の目的である。その結果、「工夫・創造する能力」の評価において86%の生徒が「おおむね満足できる状況」（B評価）以上となり、題材終了後の調査では「学習した製作に関する知識・技術を活用した」と87%の生徒が答えた。

【キーワード】

パフォーマンス評価, 題材構成, 生活の中で活用できる知識と技術, 循環型社会, 小物の製作

1 研究目的

現行学習指導要領（2008）中学校技術・家庭科では、生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得とともに、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てることを目標としている。また、平成27年9月に出された中央教育審議会の教育課程企画特別部会「論点整理」によれば、家庭科、技術・家庭科においては、実践的・体験的な学習活動を通して、家族と家庭の役割、生活に必要な衣、食、住、情報、産業等についての基礎的な理解と技能を養うとともに、それらを活用して課題を解決するために工夫し創造できる能力と実践的な態度の育成を一層重視するということが示された。

このような背景の下、生徒の工夫し創造する能力を高めるためには、生徒の実生活に近い切実な課題を題材末に設定し、学習した知識・技術を活用して、その課題を解決する場面を経験させることが有効ではないかと考える。そして、その経験が家庭でもやってみようとする生徒の実践力につながるのではないかと考えた。

そこで本研究では、その一つの手法として「パフォーマンス評価」に着目した。「パフォーマンス評価」では、様々な知識や技術を総合して使いこなす（活用する）ことを求める「パフォーマンス課題」と、評価指針である「ルーブリック」を用いて評価を行う。本研究では、中学校技術・家庭科家庭分野の内容CとDを関連づけた題材「大切にしよう わたしの衣服」において「パフォーマンス課題」を設定し、この課題を中心に据えた題材構成に基づく授業を行った。

*佐賀大学文化教育学部附属中学校

**佐賀大学文化教育学部

本研究の目的は、家庭生活において知識・技術を活用し課題を解決する能力を高めるパフォーマンス評価のあり方について示唆を得るために、前述の題材構成や設定した「パフォーマンス課題」及び「ルーブリック」の有効性等を検証・考察することである。

2 研究方法

上記の研究目的のために、中学校第1学年の題材「大切にしよう 私の衣服」を取り上げ、以下の手順で研究を進めた。

- (1) 題材で生徒に身につけさせたい能力を明らかにし、題材の目標を設定して、その目標を達成するための一時間単位の評価規準を作成する。
- (2) 知識や技術を総合的に活用できる課題として「パフォーマンス課題」を中心に据えた題材を構成する。
- (3) 「パフォーマンス課題」と「ルーブリック」を作成する。
- (4) 「パフォーマンス課題」に基づき授業を行い、課題の解決に取り組んだ生徒のワークシートの記述を「ルーブリック」に従って分析・評価する。
- (5) 事後アンケートを行い、生徒の考えの変容を見る。
- (6) (4)・(5)の結果をもとに、「パフォーマンス課題」及び「ルーブリック」の有効性等を検証する。

3 研究の実際

(1) 題材における評価規準の作成

題材「大切にしよう 私の衣服」の目標は、生徒が自分や家族の消費生活が環境に与える影響を理解するとともに、布を用いた小物の製作で学習したまつり縫いやマチなどの知識・技術を活用して課題に取り組み、循環型社会を意識した衣生活の実践につなげることにある。

評価規準の作成に当たっては、この目標の実現状況を判断するための評価規準を作成するとともに、「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 技術・家庭】」（国立教育政策研究所）を参考にして、表1で示すように内容「C住生活・衣生活と自立」と「D身近な消費生活と環境」を関連させた本題材の評価規準を作成した。この題材の評価規準をもとに、「パフォーマンス課題」や「ルーブリック」及び題材構成を具体化した。

表1 題材「大切にしよう 私の衣服」の評価規準

評価の観点	内容C	内容D	大切にしよう 私の衣服
生活や技術への関心・意欲・態度	布を用いた物の製作に関心をもって取り組み、自分や家族の生活を豊かにしようとしている。	自分家族の消費生活が環境に与える影響に関心もち、よりよい生活を実践しようとしている。	循環型社会を展望して、環境に配慮した衣生活の実践につなげようとしている。
生活を工夫し創造する能力	衣生活や住生活を豊かにするための製作品考え、製作計画や方法について自分なりに工夫している。	環境に配慮した消費生活について課題を見付け、そり解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	学習した知識・技術を生かして、生活を豊かにするための製作品を考え、製作計画や方法について工夫をしている。
生活の技能	安全能率よく、布用いた物の製作をすることができる。		安全に配慮しながら、製作に必要な補修やミシン縫い、アイロンがけなどができる。
生活や技術についての知識・理解	布用いた物製作に関する知識を身につけている。	消費生活と環境との関わりについて理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。	環境に配慮した生活や製作に必要な基礎的・基本的な知識を身につけている。

(2) 「パフォーマンス課題」を中心に据えた題材の構成

学んだ知識と技術を活用して課題の解決ができる生徒を育成するために、本研究では、「パフォーマンス課題」を中心に据えた題材構成を行った（表2参照）。作成時の留意点は、①「パフォーマンス課題」の解決に必要な知識や技術を押さえた題材構成、②生徒にとって切実感のある題材、③小中の系統性を意識した題材、④実践的な態度の育成につながる題材構成、の4項目である。

具体的には、表2の矢印が示すように「パフォーマンス課題」の授業の前までに、課題の解決に必要な知識や技術について学習できるようにした。また、9時間目にはパフォーマンス課題を解決しつつ完成させた自分の作品を紹介する時間を設け、学んだことを家庭生活で実践しようとする意欲や態度につなげたいと考えた。

表2 題材の指導計画と評価規準

時間	学習内容	題材の評価規準			
		関心・意欲・態度	工夫・創造	技能	知識・理解
		ア 循環型社会を展望して、環境に配慮した衣生活の実践につなげようとしている。	イ 学習した知識・技能を生かして、生活を豊かにするための製作品を考え、製作計画や方法について工夫している。	ウ 安全に配慮しながら、製作に必要な補修やミシン縫い、アイロンがけなどができる。	エ 環境に配慮した生活や製作に必要な基礎的・基本的な知識を身につけている。
1	○環境への影響がある場面のカードを活用し、生活の問題点を考える。 ○消費エネルギーと環境についてデータをもとに考え、持続可能な社会を目指して、私のエネルギー節約術を考える。	ア 自分や家族の消費生活が環境に与える影響に関心をもてる。			エ 消費生活と環境についての基礎的な知識を身につけている。 ・循環型社会 ・自分を取り巻く環境
2	○衣服の有効活用方法を考える ○マチ付き弁当袋を提示し、作り方の手順を考えさせ、型紙を製作する。		イ 自分や家族の生活を振り返り、循環型社会を推進するための衣生活の工夫について、考えることができる。		エ 型紙づくりの原理について基礎的な知識を身につけている。 ・立体をくるむ ・ゆとり ・3つの寸法（高さ・幅・マチ） ・縫い代の分量
3	○マチ付き弁当袋の製作 ・弁当袋に適した布を選ぶ。 ・布の裁断			ウ 布の裁断に関する基礎的な技術を身につけている。 ・裁ちばさみの使い方(確認)	エ 布に関する知識を身につけている。 ・製作に適した材料(のび・縮み・強度・厚み・洗濯・縫いやすさ) ・布目(縦方向) ・みみ・わ・中表
4	○マチ付き弁当袋の製作 ・まつり縫いをしてポケットをつくり、弁当袋に縫い付ける。			ウ ポケットの縫い方と補修に関する基礎的な技術を身につけている。 ・まつり縫い ・しつけをする ・ミシン-直線縫い ・ポケット口の丈夫な縫い方	エ 丈夫な縫い方と補修に関する知識を身につけている。 ・安全なアイロンの使い方 ・まつり縫い ・二つ折り ・三つ折り ・丈夫な縫い方 ・補強 ・返し縫い ・角をミシン縫いする

5	○マチ付き弁当袋の製作 ・布の始末 ・マチをつくる。 ・あきどまりの始末 ・袋口を縫う。		パフォーマンス課題	ウ 布の始末, マチを縫うことに関する基礎的な技術を身につけている ・布の始末 ・マチをつくる	エ 布の始末, マチについての知識を身につけている。 ・二つ折り端ミシン ・ジグザグミシン ・二度縫いピンキング ・マチの作り方
6	○着なくなった衣服を活用しよう。 ・家庭にある着なくなった衣服の活用を考えさせ, 生徒用ルーブリックをもとに生活を豊かにする製作物を決定する。		イ 学習した知識や技術を活用して環境に配慮して豊かな生活に役立つものを考え, 製作計画を立てることができる。 ・次世代につなぐ環境への配慮 ・立体をくるむ作品 ・製作に適した材料 ・家族の生活に役立つもの ・家族の思いを形にする	←	←
7	○着なくなった衣服を活用しよう。 ・自分の製作手順に従い, 目的に応じた縫い方を工夫する。	ア 製作手順に従って見通しをもち製作に意欲的に取り組んでいる。	イ 学んだ技術を活用して目的に応じた縫い方を工夫している。 ・縫い代 ・布を裁つ ・布の始末 ・丈夫な縫い方	←	←
8		ア 製作手順に従い, 製作の完成を目指して意欲的に取り組んでいる。	イ 学んだ技術を活用して目的に応じた縫い方を工夫している。 ・布の始末 ・丈夫な縫い方	←	←
9	○生活を豊かにしよう。 ・自分の作品の紹介 ・クラスで意見交流 ・自分の「問い」の答えを記入させる。	ア 身近な消費生活の視点から持続可能な社会を展望して, 環境に配慮した家庭生活を実践しようとしている。	実践的な態度	←	←

(3) 「パフォーマンス課題」と「ルーブリック」の作成

① 「パフォーマンス課題」の作成

生徒の実態に基づく切実感のある「パフォーマンス課題」を目指して, まず生徒の実態把握のためのアンケートを行った。

「資源に使えるよう, 衣服は極力, 廃品回収等に出したり, 企業の回収に出したり, 資源の有効利用をしているか」の質問では, 生徒の65%が「とてもそう思う」「だいたいそう思う」と肯定的に回答している (図1参照)。しかし,

「あなたの家には, 着なくなった洋服がどれくらいあるか」の質問では, 87%の生徒が家庭に着なくなった洋服があると答え, 3%ではあるが40枚以上着なくなった衣服があると答えた生徒もいた。また, 「着なくなった衣服の活用をどのようにしているか」の質問では, 「人に譲る」36%, ついで「捨てる」21%であった。

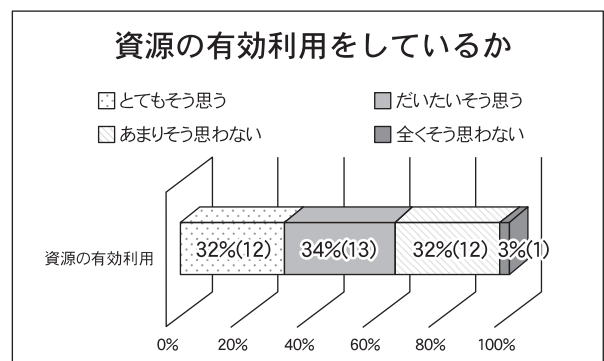


図1 資源の有効利用 [人 (%)]

この結果より、資源の有効利用をしていると思う生徒は比較的多いものの、衣生活において着なくなった衣服を資源だととらえ有効に利用しているとは言えない状況があることも分かった。そこで、環境に配慮した資源の活用として、着なくなった衣服の活用を盛り込んだ「パフォーマンス課題」とした(表3参照)。

表3 パフォーマンス課題

未来くんは、技術・家庭科で循環型社会について学んだので、衣替えの時に見つかった着なくなった洋服をもう一度使えるものに変えてみようと思いました。そして、せっかく作るのであれば、家庭科で学んだ知識や技術を活用して、家族の生活を豊かにするものをつくりたいと考えています。
 次の休日の2時間が製作時間です。あなたが未来くんなら、どんな物をつくりませんか。

この課題では、「家庭科の時間で学んだ知識や技術を活用すること」、「生活を豊かにする物の製作を行うこと」、「2時間でつくれるもの」を条件として生徒に考えさせた。また、未来に向かって生きる生徒達自身を「未来くん」と表すなど、生徒が自分自身のこととして実感を持って取り組むことができる課題となるように工夫した。

② 「ルーブリック」の作成

本時の「工夫し創造する能力」の評価規準「学習した知識や技術を活用して、環境に配慮して豊かな生活に役立つものを考え、製作計画を立てることができる」を踏まえて「ルーブリック」を作成した。この「ルーブリック」(表4)は、前時までに学習した知識・技術を活用できているかという視点から、「環境への配慮があるか」、「生活を豊かにする製作物となっているか」、「製作に適した材料か」、「立体をくるむ要素が入っているか」の4項目を判断基準とし、製作計画にこの4項目の要素が入っているものを「おおむね満足できる状況」(B評価)とした。また、これらの4項目に加えて、「次世代につなぐ環境への配慮がある」、「家族の思いを形にする」「使いやすさ」まで考えているものを「十分満足できる状況」(A評価)とした。「努力を要する状況」(C評価)の生徒への手立てとしては、学習内容・用語の一覧表やワークシート、着なくなった衣服の活用例(製作のヒント集)で確認させるようにした。なお、生徒用として「生徒用ルーブリック」(表5)を作成し配布した。

表4 教師用ルーブリック

評価	製作計画
A	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代につなぐ環境への配慮 ・立体をくるむ作品 ・製作に適した材料 ・家族の生活に役立つもの ・家族の思いを形にする ・使いやすさ <p style="text-align: right;">学習したことを十分に生かして、衣生活で活用できる製作物を考え、計画を立てている。</p>
B	<ul style="list-style-type: none"> ・環境への配慮 ・立体をくるむ作品 ・製作に適した材料 ・家族の生活に役立つもの <p style="text-align: right;">学習したことを生かして、衣生活で活用できる製作物を考え、計画を立てている。</p>
C	<p>・課題にそって計画を立てることができない。 (Cの生徒への手立て)</p> <p>・学習内容・用語の一覧表やワークシートを使ってこれまでの学習を想起させたり、着なくなった衣服の例(見本等)を見せたりして、自分が持ってきた着なくなった衣服の活用方法を考えさせる。</p>

表5 生徒用ルーブリック

評価	製作物
A	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代につなぐ環境への配慮 ・立体をくるむ作品 ・製作に適した材料 ・家族の生活に役立つもの ・家族の思いを形にする ・使いやすさ <p>学習したことを十分に生かして、衣生活で活用できる製作物を考え、計画を立てている。</p>
B	<ul style="list-style-type: none"> ・環境への配慮 ・立体をくるむ作品 ・製作に適した材料 ・家族の生活に役立つもの <p>学習したことを生かして、衣生活で活用できる製作物を考え、計画を立てている。</p>
C	<ul style="list-style-type: none"> ・製作物が未来くんの課題にそっていない。 ・環境、立体をくるむ、適した材料、家族の生活に役立つという視点が欠けている。

(4) 本時の授業構成と実施後の生徒のワークシートの分析・評価

① 授業の構成

本時の授業展開を表6に示す。作品を作る上で大切になってくるのが製作計画である。製作計画

表6 授業展開

	学習活動と内容	形態	教師の指導・支援	評価
導入	1 前時の活動の確認をする。 2 本時の活動を把握し、本時の学習課題を知る	斉 個	1 これまでの学びのキーワードを確認する。 2-(1) 衣生活を豊かにするものについて考えさせる。 2-(2) 本時の学習の流れを簡単に説明し、学習課題を提案する。	
展開	3 自分の製作物を決定しよう。 4 製作計画を立ててみよう。 5 製作する製作計画の見直しをしてみよう。	斉 個 ペア 斉 個	3-(1) パフォーマンス課題とルーブリックを確認する。 3-(2) 生徒用ルーブリックを基に自分の製作物の決定をさせる。 4-(1) 製作計画を立てさせる。 5-(1) 個人の製作計画について、生徒用ルーブリックを基に見直し、アドバイスを付箋紙に書かせる。 5-(2) 参考になりそうな作品名や計画を発表させ共有化させる。 5-(3) 友達のアドバイスとルーブリックを基に決定した製作物の見直しをさせる。	イ 学習した知識や技術を活用して、環境に配慮して豊かな生活に役立つものを考え、製作計画を立てることができる。(ワークシート)
展望	6 本時のまとめをする。 7 次時予告を知る	斉 斉	6-(1) 家庭での衣服の有効活用が持続可能な社会につながることを想起させる。 6-(2) 自己評価を記入させる。 7 次時は、「作品づくり」をしていくことを告げる。	

画では、発想豊かな作品、使用目的、機能、形、材料、縫い方、時間などの視点を考えながら構想を練る必要がある。そこで導入の場面では、衣生活を豊かにするにはどのようなことかを考えさせた。そして、パフォーマンス課題を解決する場面（製作計画を立てる場面）では、事前に調査した家庭生活に役立つ物についての家族へのインタビュー結果やルーブリック、豊かな衣生活の視点を基に考えさせた。また、製作計画の見直しの場面では、ペア活動を取り入れ、生徒用ルーブリックを

基にアドバイスをを行うようにし、他者の意見を取り入れ製作計画についてより深く検討することができるようにした。

② 生徒のワークシートの構成

授業で用いたワークシートを表7に示す。このワークシートに記入させたい制作計画は、①「何をつくるのか」、②「どのような材料を使うのか」、③「どこを、どのように縫うのか」、④「どのような手順で製作するのか」である。授業では、①②③についてワークシートの「2」の部分に、④「手順」については、ワークシートの「4」の部分に記入させた。実際の授業では、「2」の部分に時間がかかってしまい、「4」の手順については、記入が不十分な生徒が多かったことから、「4」の手順の記載のさせ方については再検討する必要がある。

表7 生徒のワークシート

①「何をつくるのか」
 ②「どのような材料を使うのか」
 ③「どこを、どのように縫うのか」
 ④「どのような手順で製作するのか」

③ 生徒のワークシートの分析

生徒の制作計画の記述に関して「環境への配慮」、「生活を豊かにする」、「製作に適した材料」、「立体をくるむ」の4つの視点をもとに教師用ルーブリックで評価した。評価結果を表8に示す。その結果、「A」と評価した生徒が15人(38%)、「B」と評価した生徒が19人(48%)、「C」と評価した生徒が7人(14%)であった。

表9は、ワークシートに書かれた生徒の制作計画の記述である。4つの視点がすべて記入されている生徒の作品を「B」と評価し、表9の生徒3のように、「家族への思いを形にしている」や「製作に適した材料」記述が書かれている作品を「A」と評価した。一方、生徒1のように、「立体(マチ)」の記述がなかったり、「製作に適した材料」の記述がなかったりしたものは、「C」と評価した。

表8 評価結果 [人 (%)]

評価	人数 (%)
A	15 (38%)
B	19 (48%)
C	7 (14%)

表9 「パフォーマンス課題」における製作計画の記述

抽出生徒	ワークシートの記述		
	製作物とその理由	製作する作品に使用する材料とその理由	縫い方等の工夫
生徒1 (C評価)	製作物：「巾着袋」 お姉ちゃんが、おかしや文具(はさみ等も含む)の入れ物が <u>ほしいと言っていたから</u>	材料となる衣服：「Tシャツ・ジーンズ」 お姉ちゃんが <u>喜びそうな柄</u> だから	ポケットを二つつける
生徒2 (B評価)	製作物：「ポーチ」 物を入れるポーチが <u>ほしいと言われたし、ちょうどいい服があったから</u>	材料となる衣服：「パーカー」 ファスナーがあって、 <u>かわいいデザインだし、丈夫だから</u>	ファスナーは、パーカーについている部分を利用する。 マチをつける。 内側にポケットをつける
生徒3 (A評価)	製作物：「バック」 お父さんが図書館で使っているバックが古くなっているし、たくさん本を借りるから <u>丈夫なバックが必要だから</u>	材料となる衣服：「綿のスカート」 <u>生地があまりのびず丈夫だし、スカートで大きいから、大き目のバックが作れそうだから。</u>	持ち手は、スカートのすその部分の三つ折りの部分をそのまま使い、縫い付けるところは、×印に縫い、 <u>丈夫にする。</u> スカートのウエスト部分を袋口にし、その部分についているリボンをそのまま利用することで <u>大きさを調節</u> できる。

今回の評価で「C」と評価した生徒は7人であるが、その内訳は、立体をくるむ作品になっていないもの4人、製作に適した材料ではなかったもの2人、製作計画の記述が不備だったもの1人であった。布を使った製作は小学校でも学習する内容であることから、今回の製作では、小学校との系統性を重視して「立体をくるむ作品」にこだわった。立体作品になっていない生徒は、「家族へのインタビュー」結果を重視し、自分の家族が必要とするものを優先して製作品を決定したため、立体をくるむ作品の計画ができなかったと考えられる。作品の一部に立体的要素を取り組むヒント集などの資料を作成する必要性を感じた。

(5) 題材終了後のアンケート結果

題材終了後、アンケートを実施した。「着なくなった衣服は捨てずに活用したいと思うか」の質問では、「とてもそう思う」「だいたいそう思う」と肯定的に回答した生徒の割合が93%であり、これからの家庭生活で着なくなった衣服を活用したいと、意欲が高まった生徒がほとんどであった(図2参照)。また、活用方法についての事前調査では、「他の人に譲る」と回答した生徒が36%と多かったが、授業後は「他の物に作り替える」と回答した生徒が38%と最も多くなった。今回の「パフォーマンス課題」の特徴は、実際に学校で製作をさせたところにある。この体験が生徒の中で実感となり、「着なくなった衣服は捨てずに活用したい」

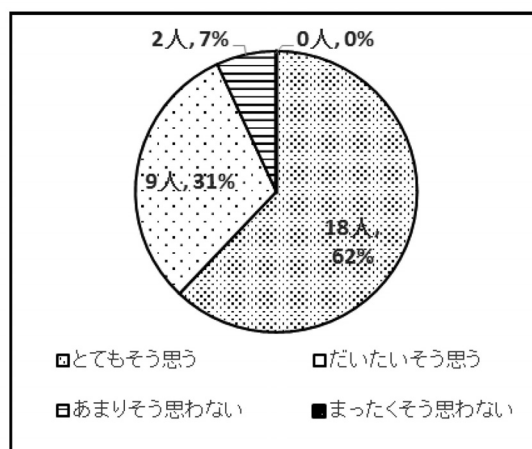


図2 着なくなった衣服の活用 [人(%)]

と考えるようになったのではないかといえる。次に、「2回目の製作（パフォーマンス課題）では、1回目の製作「弁当袋づくり」で学習したことを生かして、自分で工夫できたと思うか」では、「とてもそう思う」「だいたいそう思う」と肯定的に回答した生徒が83%であり、8割を超える生徒が工夫できたと感じていることが分かる。

また、「パフォーマンス課題に1回目の弁当袋作成で学習した製作に関する知識・技術を活用することができたか」の質問では、「とてもそう思う」「だいたいそう思う」と肯定的に回答した生徒が87%であった(図3参照)。学習に生かした内容は、「丈夫な縫い方」が32%、「マチの大きさを考えた縫い方」22%、「布の始末」12%、「製作物に適した材料」12%等であった(図4参照)。本研究では、パフォーマンス課題解決時に必要な知識・技術を前時までに確実に学習させるよう計画したこと、また、体験的な学習を通して知識・技術の科学的理解が深まるよう工夫したこと(例えば、標本による「ポケットのつけ方の違い調べ」、「布地に合った布端の始末調べ」等)が、パフォーマンス課題の解決の場面で、学んだ知識や技術を活用できたことにつながったと考える。

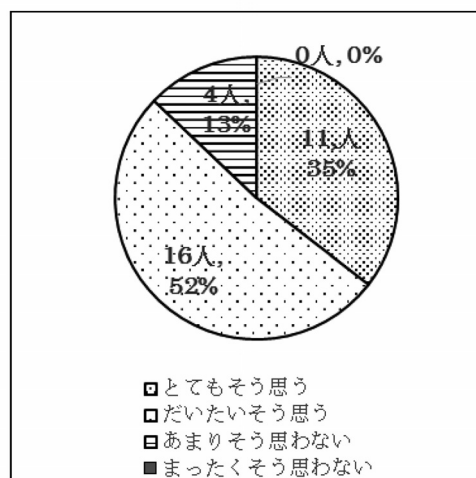


図3 知識・技術を活用できたか [人 (%)]

本題材を学習しての生徒の感想の中に、「1つ1つの衣服には大切な資源が使われているし、思い出が残っているので、家庭生活でも衣服の循環を意識したい」「着なくなった衣服でも再利用し、思い出も残していきたい」等の記述があった。これらの感想から、一連の学習を通して、生徒は本題材の目標でもあった循環型社会における衣生活の在り方や実践の仕方について、考えを広げ深めたのではないかと感じている。

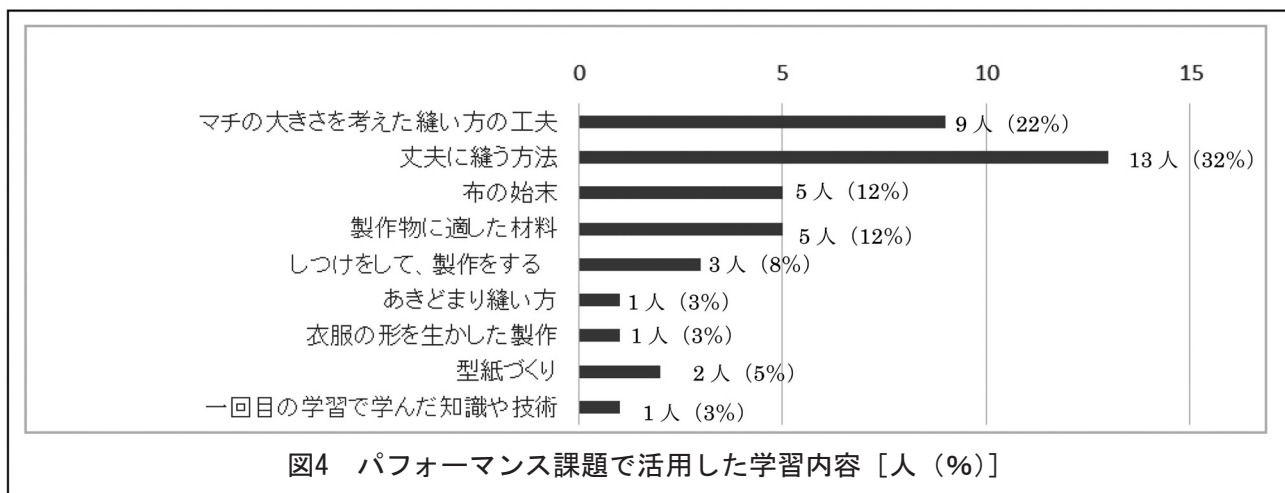


図4 パフォーマンス課題で活用した学習内容 [人 (%)]

(6) 「パフォーマンス課題」及び「ループリック」の有効性等

ここでは、題材「着なくなった衣服を活用しよう」における「パフォーマンス課題」と「ループリック」の有効性等について、前述の(4)と(5)の結果を基に考察を加える。

分析の視点は、次の2点である。

○パフォーマンス課題を用いた授業における生徒の実現状況は十分なものといえるか。

○パフォーマンス課題の解決時に、前時までに学習した知識・技術を活用することができたか。

① 授業における生徒の実現状況について

パフォーマンス課題を用いた授業「着なくなった衣服を活用しよう」（全3時間）のねらいは、「学習した知識や技術を活用して、環境に配慮して豊かな生活に役立つものを考え、製作計画を立てることができる」である。このねらいの実現状況を把握するために具体的評価規準と「ルーブリック」を作成した。評価結果は、前述のとおり、A評価38%、B評価48%、C評価14%であり、「おおむね満足できる状況（B）」以上と評価した生徒が86%であることから、パフォーマンス課題やルーブリックを活用した授業について、一定の成果は得られたといえる。

ただし、生徒同士の相互評価の場面でルーブリックを用いてアドバイスをさせた際は、キーワードだけでは評価の度合いが分かりにくく、ルーブリックを用いた相互評価ができにくい状況が見られた。今回、生徒の作品の参考資料（教師の作品）として、A評価のものだけを作成していたが、B評価やC評価の生徒の作品の参考資料も作成しておくと思える資料になると考える。また、作品だけでなく、評価をするための度合いがわかるものを「ルーブリック」の中に追加記載しておく等、再検討が必要である。

② 学習した知識・技術の活用について

題材終了後の生徒のアンケート結果を見ると、「パフォーマンス課題に1回目の弁当袋作成で学習した製作に関する知識・技術を活用することができたか」の質問に対して、「そう思う」と肯定的に回答した生徒は87%であった。また、「着なくなった衣服は捨てずに活用したいと思うか」の質問に対して、「そう思う」と肯定的に回答した生徒の割合は93%であり、家庭での衣服の効果的活用について意識や意欲が高まったことが分かる。

今回のパフォーマンス課題は、製作計画に基づき実際に作品を製作する点に特徴があり、リメイクするという体験をしたことから、生徒の実践化への意欲も具体的な言葉で表れていたといえる。

4 まとめ

本研究の成果は、

- ・これまでに見られなかった着なくなった衣服の活用の視点が加わり、家庭でも作ってみようとする意識が芽生えてきたこと、
 - ・題材構成の工夫が、学んだ知識や技術の活用につながったこと、
 - ・「パフォーマンス評価」の導入は、生徒の工夫・創造する能力を高めることができたこと
- の3点である。

一方、課題として検討が必要な事項は、

- ・生徒の判断基準をより分かりやすく明示した「ルーブリック」の再検討
- ・教師の資料の与え方の工夫
- ・家庭での実践力を把握するための評価方法の工夫

の3点である。

今後は、これらの課題について他の題材でも検証するなど、さらに研究を深めていきたい。

【参考文献】

国立教育政策研究所教育課程研究センター『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 技術・家庭】』 2011.

西岡加名恵編著 『逆向き設計で確かな学力を保障する』 明治図書 2008.

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編』 2008.

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 家庭編』 2008.